

U A E主要内外政動向
(除、ドバイ・北部首長国)
(2010年9月17日～9月23日分当地報道取り纏め)

平成22年9月23日正午現在
在アラブ首長国連邦日本国大使館

1. 要人往来

(1) 当国要人の外国訪問

- 20日～ アブダラー外相が、第65回国連総会等に出席のため、ニューヨークを訪問。20日には、GCC外相級調整会合に出席。21日、イランのモッタキ外相と会談し、イランの核問題を含む二国間関係等について協議したほか、トルコのダーヴトオール外相、キプロスのキプリアヌー外相、オーストラリアのラッド外相、ボスニアのアルカライ外相、アルゼンチンのティメルマン外相、バングラデシュのモニ外相及びウルグアイのアルマグロ外相と会談。また、ストーレ・ノルウェー外相主催のパレスチナ支援に関する朝食会に出席。22日、イエメンフレンズに関する会合に出席したほか、韓国の柳明桓外交通商部長官、コソボのヒセニ外相及びセネガルのニヨン外相と会談。
- 21日 ガルガーシュ外務担当国務相が、ウィーンで開かれた第54回IAEA総会に出席。演説で、安全及び不拡散がUAEの核エネルギーの平和利用プログラムの主要な柱であると述べる。
- 21日 ハーシミー国務相が、NYで開かれた国連MDG会合に出席。演説で、UAEは国連ミレニアム開発目標(MDG)達成のため、UAEは最善の努力を続け、先進国には援助のプレッジを遵守するよう求めると述べた。

(2) 外国要人の当国訪問

- 15日～ バート英外務省政務次官が、当地を訪問し、第2回英・UAEタスクフォース
- 16日 会合に出席。UAE側からはガルガーシュ外務担当国務相が出席。防衛及び安全保障、貿易及び投資、エネルギー及び気候変動、パキスタン、アフガニスタン及びイエメン等の国際情勢における協力、文化・教育・保健・スポーツ及び領事関係分野での両国間の協力強化を今後12ヶ月間で図っていくことで合意し、コミュニケを発表。
- 19日～ ムハンマド・アブダビ皇太子が、当地を訪問したブラジルのジョビム防衛相と
- 20日 会談し、軍事・防衛分野での両国間の協力について協議。また20日、ジョビム防衛相は、ルメイシーUAE連邦軍参謀総長とも会談。
- 20日 19日、インド外務省のビジャヤ・レディ次官(東部担当)が、当地を訪問し、ガルガーシュ外務担当国務相と印・UAE政治協議委員会を開催。ロケシュ在

- U A Eインド大使によれば、両国間の治安に関する協力及び犯人引き渡しに関し、合意間近と当地英字紙ガルフ・ニュースが報道。
- 20日～ 李建国全人代副委員長が、全人代の代表団とともに当地を訪問し、グレイル連
21日 邦国民評議会（FNC）議長と会談。U A Eがイランと領有権を争っている三島問題に関し、中国がU A Eの平和的な解決を目指す姿勢を支持すると述べる。
- 21日 ダーヒリーFNC第1副議長が、当地を訪問したニュージーランド議会の代表団と会談。
- 21日 マンスーリー経済相が、当地を訪問した英サスーン商務相と会談し、両国の通商関係について協議。

2. アブダビ王族の動向（除、要人往来、外政）

- 17日 午前、ハリーフア大統領が、スイスでの病氣療養を終え、無事に快復し、当地アル・アイン空港に到着。帰国には、タハヌーン東部州知事やマンスール副首相兼大統領官房相（故ザーイド13男）が付き添い、空港ではムハンマド副大統領兼首相（ドバイ首長）及びムハンマド・アブダビ皇太子（故ザーイド3男）ら主要王族が出迎え。
- 18日 ハリーフア大統領が、リビアのカダフィ指導者、バーレーンのハマド国王、エジプトのムバラク大統領及びイエメンのサーレハ大統領から無事の帰国と快復を祝う電話を受ける。
- 18日 ナヒヤーン高等教育・科学研究相が、ドバイで開かれた第23回高等技術大学（HCT）会議に出席。
- 19日 ハリーフア大統領が、ムハンマド副大統領兼首相及びスルターンシャルジャ首長ら各首長国の首長や皇太子からの訪問を受け、病氣療養の成功と無事の帰国を祝福される。ムハンマド皇太子及びハムダーン西部州知事（故ザーイド4男）らが同席。
- 20日～ ハリーフア大統領が、アル・アインのラウダ宮殿で、王族、政府高官、著名人
21日 及び一般の市民からの訪問を受け、病氣療養の成功と無事の帰国を祝福される。
- 21日 ハムダーン西部州知事が、当地を訪問したモンゴルの環境・観光相と会談し、鷹の保護に関する共同の取り組みについて協議。
- 22日 ハムダーン西部州知事が、当地で開かれた第8回アブダビ国際ハンティング馬術展示会（ADIHEx）の開会式に出席。また、ムハンマド皇太子も視察に訪れ、U A Eが文化遺産の保護に取り組んでいると強調したほか、新世界七不思議を決める国際的な競争で当地の離島ブ・ティナ島に一票を入れる。
- 22日 ハリーフア大統領が、病気の快復と無事の帰国への祝福に対して深い感謝の意を表明するとの声明を発表。また、ハリーフア大統領は、サウジのアブドゥラ

一国王、クウェートのサバーハ首長及びハマスのマシュアル政治局長から病気の快復と無事の帰国を祝う電話を受ける。

22日 ナヒヤーン高等教育・科学研究相が、当地を訪問した雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」の一行を迎える。

3. 外政（除、要人往来）

19日 アブダラー外相が、パキスタン支援に関し、今後もUAEが長期的な視点に立って支援を行っていくなどとする論文を当地英字紙ナショナルに寄稿。

20日 ルーミー社会問題相が、在UAEマレーシア大使と会談し、二国間関係について協議したほか、10月にマレーシアで開かれる「今日の子ども、明日のリーダー」と題するサミットへの招待状を受け取る。また、同相は、当地UNDPのサルー代表とも個別に会談。

20日 UAE及びウズベキスタンの担当者が、犯人引き渡し等3つの刑事分野の二国間条約の締結に向け3日間の協議を行う。

20日 グレイルFNC議長が、ディオニシー在UAEイタリア大使からイタリアの勲章の授与を受ける。

22日 当地UNDPのサルー代表が、UAEのミレニアム開発目標（MDG）の達成状況について現在、2007年に発表された報告書に続くMDGに関する報告書をUAE政府と作成中であり、大半の目標が達成可能だが、焦点は環境と保健分野になると述べたと、当地英字紙ナショナルが報道。

22日 当地を訪問したブラジルのジョビム防衛相が、UAEがブラジルからKC-390等輸送用及び軽武装航空機を購入する合意が近く結ばれると記者団に述べたと、当地英字紙ナショナルが報道。

22日 マンスール副首相兼大統領官房相が、エジプトのアバザ農相から両国間の協力に関する書簡を受け取る。

22日 UAEが、国際鉄道連盟（UIC）及び欧州鉄道産業（UNIFE）と鉄道分野における情報交換と協力促進に関する覚書に調印。

22日 UAE外務省のアワーディー法務担当外相補佐官が、第6回連邦国際人道法委員会を開催し、UAE赤新月社との協力の方途について協議。

4. 政令・人事・機構改編

18日 ファーティマ故ザード大統領夫人が、家族開発財団の理事長にマリヤム・ルメイシー氏を任命。

19日 グレイルFNC議長が、ムハンマド・アル・カマリー氏をFNC事務局の渉外局長に任命。

5. 連邦国民評議会（FNC）の動向

特になし

6. その他国内政府機関等の動き

- 18日 アブダビ警察が、この時期早朝霧の発生が多く視界が悪くなるため、車の運転に注意を呼びかける。
- 20日 今年は44のアブダビ政府機関が参加して、政府の透明性や効率性などを競う第3回アブダビ・政府パフォーマンス賞の選考が行われると、当地英字紙ナショナルが報道。
- 20日 アブダビ文化遺産庁が、22日～29日までの1週間当地にてベラルーシ文化週間を実施。
- 20日 アブダビ司法庁は、最近同庁公判部に入った職員に1年間の特別トレーニングコースを提供。
- 20日 連邦財務省が、ハリーフア起業発展基金と共同プロジェクトなどに関する覚書に調印。
- 20日 アブダビ教育評議会（ADEC）が、当地の私立学校がADECの定めた基準を遵守しているか調べる査察を開始。
- 21日 アブダビ食品管理庁が、当地の動物用薬局から使用期限が切れた動物用の薬90種類以上を押収したと、当地英字紙ナショナルなどが報道。
- 23日 アブダビ環境庁とアブダビ教育評議会が、当地の学校での環境教育及び持続的発展に関する教育の促進に関する覚書に調印。

7. 国内外における国内人道支援機関の活動

- 16日 アブダビ国営石油会社（ADNOC）が、パキスタンの洪水被害者支援として200万ディルハム（約4800万円）をUAE赤新月社に寄付。
- 16日 アブダビメディア会社（ADMC）が、ラマダン期間中にイッティハード紙及びナショナル紙の読者から集めた20万ディルハム（約480万円）をUAE赤新月社に寄付。
- 16日 UAE連邦軍が、パキスタンの洪水被害支援のためパキスタン軍の要請を受け、パンジャーブ州からシンダー州及びバロチスタン州に移動し、人道支援活動を開始。
- 17日 エミレーツ世界人道支援児童フィールド病院が、パキスタン・シンダー州のRazak Abad 救援キャンプに医療診療所を開設。
- 17日 UAEがパキスタンに供与した320MWの発電所の一部が、電力の提供を開始。
- 17日 UAE赤新月社が派遣した35トンの救援物資を積んだ第4陣となる航空機がパキスタンに到着。
- 19日 UAE赤新月社が、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）とパキスタン洪

水支援のため、住居建設など2900万ディルハム（約7億円）の救援プログラムの基金を設立。また、赤新月社は、パキスタンのChe Sada 地区に医療チームを派遣。

- 20日 エミレーツ世界人道支援児童フィールド病院が、パキスタンの遠隔地での医療サービスの提供のため2台の医療用バスを投入。
- 22日 UAE赤新月社が、UNICEFとパキスタンの洪水被害者の子どもや女性85万人を対象とした麻疹及び破傷風の予防接種プログラムに合意。

8. 労働政策

- 19日 アブダビ政府が、労働者の住宅状況改善のため、企業にとってはコスト増になるものの労働者をより住居水準の高い新設の労働者キャンプへの転居を進めていると、当地英字紙ナショナルが報道。
- 22日 サーディヤット島の開発を行う観光開発投資会社（TDIC）とグッゲンハイム財団が、グッゲンハイム美術館の建設のため働く労働者の福祉と権利保護について纏め、深く関与していくとの声明を発表。これに対し、サーディヤット島の開発における労働者の人権侵害を非難していた国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチも歓迎する声明を発表したと、当地英字紙ガルフ・ニュースが報道。

9. 治安情勢

- 20日 19日、アブダビ第1審刑事裁判所が、スルターン大統領代表（故ザード次男）のオフィスのメディア・文化事業担当長だったUAE人の男が、300万ディルハム（約7200万円）を着服したとして起訴された事件の公判が開かれ、元担当長は容疑を否認したと、当地英字紙ナショナルが報道。
- 21日 20日、アブダビ第1審刑事裁判所で、当地交通局で車両登録係の男が、大型車の登録更新を普通車などと偽って登録し、登録料の差額のべ約70万ディルハム（約1700万円）を着服していたとする公判が開かれたと、当地英字紙ナショナルが報道。
- 21日 20日、アブダビ第1審刑事裁判所で、当地コーニッシュ地区でタクシーを長時間待っていたエチオピア人の女性を車に同乗するよう誘い、車中に連れ込み婦女暴行をはたらいた男の公判が開かれたと、当地英字紙ガルフ・ニュースが報道。
- 22日 21日、アブダビ第1審刑事裁判所で、シリア人の男がパキスタン人の男をハンマーで殴り殺そうとしたとして殺人未遂の罪に問われている裁判が開かれ、シリア人の男は警察から1日14時間に及ぶ尋問を受け自白を強要させられたとして無罪を主張したと、当地英字紙ナショナルが報道。

10. その他

- 18日 ロンドンのウエストミンスター市評議会が、過去数年間でUAE人による交通違反の反則金が総額190万ディルハム（約4500万円）となり、外国人ドライバーの反則金の8%を占めるなどとする報告書を発表。
- 20日 ハリーファ科学技術大学（KUTAR）が、米ジョージア科学大学（Georgia Tech）と共同研究や共通の教育プログラムなどに関する覚書に調印。
- 20日 UAE国内の医療機関が、癌がUAEでの死亡原因のうち、心臓病、事故に続き3番目に多いなどとする報告書を発表。

（了）